

# 本町・魚屋町 Q&A

## Q. 本町はどうやってできた?

**A.** 彦根城が築かれたとき、もともと村だったところが城下町がつくられました。本町は、1604年、最初に町割が行われたところです。城の大手門、京橋口御門を出て、京都方面へ向かうところに位置し、城下町の中でも重要な町だったことがわかります。また、佐和山城下の本町を移転してつくられたとも伝えられています。

## Q. この地域にゆかりの人物は?

**A. 長野義言** (1815 ~ 1862)  
 井伊直弼の腹心。通称は主膳。坂田郡で私塾を開く国学者で、直弼も門弟になっていました。直弼が藩主になると藩士に召し出され、藩校弘道館で教えたり、側近として対朝廷工作などで活躍したりしました。しかし直弼の死後、藩の方針が転換し、四十九町の牢屋で処刑されました。

**中村長平**  
 長野義言の門弟。郷宿油屋を営む四十九町の町人。義言に入門し国学を学び、政治活動を助けました。義言が処刑されると、義言の名誉回復と遺族の援助にその生涯をかけました。義言が処刑された牢屋に地蔵を安置し、天寧寺に義言の墓をつくりました。

**門野留吉** (1847 ~ 1908)  
 彦根バルブの創始者。開出今村(彦根市開出今町)出身で親戚の婿養子となって上魚屋町に移りました。はじめは銚金職人でしたが、明治20年代、その技術を生かしてカラン、バルブ・コックの製造に取り組みました。多くの弟子を育て、彦根バルブが発展する基礎を築きました。



玄関先の井戸は魚屋のなごり



ひこね  
**本町・魚屋町**  
 Hikone Hommachi・Uoyamachi Map  
**マップ**

## 古地図で楽しむまち歩き ぶらひこねマップ コース **6**

彦根城を見た後、夢京橋キャッスルロードや四番町スクエアを歩くだけではもったいない! 実は、そこから脇道に入ったところにこそ、江戸時代の町家や寺院、近代の遺産など、城下町らしい風景が残っているのです。本物の歴史遺産を探しに、城下町を歩いてみましょう。



## ぶらひこねマップ的 まち歩きのポイント

### 1. 町家の細部を観察しよう!

このエリアの特徴は、江戸時代の町家がたくさん残っていることです。屋根のウダツは、火事が隣の家から燃え移るのを防ぐためのもので、大屋根より上に突き出た本ウダツは貴重です。屋根の上では、鍾馗さんや七福神などの瓦を発見できます。



### 2. レトロな看板を楽しもう!

古いまちには古い看板が残っています。戦前の化粧品店の看板、昭和の子ども向け雑誌の看板など、どれも魅力的!



### 3. 昔の町名に注目!

江戸時代の町名は、昭和40年代の町名変更でなくなりましたが、今も案内板や石碑で見ることができます。集まっていた職種を示す魚屋町、桶屋町、移転前の地名に由来する四十九町、石ヶ崎町など、城下町らしい町名がたくさんありました。

## 本町・魚屋町エリアへのアクセス

JR・近江鉄道 彦根駅から徒歩約20分



## 「ぶらひこねプロジェクト」とは?

まち遺産ネットひこねは、彦根のまちに残る歴史的な遺産を再発見し、紹介していく市民団体です。これまでに「鍾馗さんマップ」「彦根城外堀マップ」「花しょうぶ通りマップ」「七曲がりマップ」「伝馬町・川原町マップ」を制作し、古地図を使ったまち歩きを楽しさを発信しています。

まち遺産ネットひこねホームページ [http://www.geocities.jp/machisan\\_hikone/](http://www.geocities.jp/machisan_hikone/)

2014年10月18日 初版発行  
 2016年10月29日 第2版発行

制作 まち遺産ネットひこね (文・写真 鈴木達也)

### 参考文献

『新修彦根市史 第10巻 景観編』(彦根市、2011年) / 『新修彦根市史 第11巻 民俗編』(彦根市、2012年) / 『彦根明治の古地図 三』(彦根市、2003年) / 『彦根の町並-旧下魚屋町/職人町・上魚屋町-』(彦根市教育委員会、1976年) / 『彦根の民家』(彦根市教育委員会、1980年) / 『彦根の近世社寺建築』(彦根市教育委員会、1983年) / 『彦根の先賢』(彦根市立教育研究所、1987年) / 柴田實監修『日本歴史地名大系 25 滋賀県の地名』(平凡社、1991年) / 彦根史談会編『城下町彦根-街道と町並-』(サンライズ出版、2002年) / 石田潤一郎ほか『湖国のモダン建築』(京都新聞出版センター、2009年) / 細江敏「ひこねほんまの今昔」(彦根史談会編『彦根郷土史研究 26号』、1990年) / 矢部寛一『彦根古城の秘史』(彦根史談会、1964年) / 『彦根バルブの歩み』(滋賀県バルブ事業協同組合連合会、1980年)

このマップは、彦根市のひこね市民活動促進助成金を受けて制作しました。「御城下惣絵図」は、彦根城博物館の許可を得て掲載しています。



**1 夢京橋キャスルロード**  
江戸時代の京橋通りは、御商人や藩の施設が集まる中心地だった。1987～1999年、道路拡幅に伴い江戸時代風の町並みが整備され、観光地になった。



**2 旧市役所跡**  
明治22年から昭和43年まで彦根町役場(市役所)があった場所。昭和3年建て替えの庁舎はタイル張りのモダンな外観で、当時の前庭の柵石が現存する。



**3 上野家住宅**  
江戸時代後期の町家。通りのくいちがいの部分に面している。虫籠窓と格子窓、袖壁があり、落ち着いた色彩になっている。国登録有形文化財。



**4 地福院(慶山行者堂)**  
1611年、元川川に建立。開祖の子慶山のとときに本町へ移り、井伊家の手厚い保護を受ける。現在は民家の奥にたたずみ、不動明王や役行者像を守っている。



**5 スミス記念堂**  
昭和6年、アメリカ人牧師スミスが建てた礼拝堂。城を模した和風の意匠が美しい。2007年、保存運動が実を結び現在地に移築。国登録有形文化財。



**6 腹痛石**  
彦根城築城以前、彦根山に寺があった。旅人がこの石に腰かけて休んだという。貴重な石が動かされないよう、触ると腹が痛くなると言い伝えられた。



**7 義言地蔵**  
彦根藩の牢屋跡。長野主膳義言は井伊直弼の腹心だったが、直弼死後、藩の方針が変わり、牢内で処刑される。主膳の門人中村長平がそこに地蔵を安置。



**8 旧第百三十三銀行西支店**  
長野主膳の名譽回復に生涯をかけた中村長平の屋敷跡。現在の瀬戸製茶の建物は、大正13年から昭和34年まで銀行だった。瓦や窓飾りに銀行のマークが残る。



**9 旧広田家住宅**  
江戸時代後期の建築。魚間屋を営み、「納屋七」という屋号だった。黒い外壁が美しい重厚な構えで、彦根を代表する町家である。市指定文化財。



**10 細川家住宅**  
江戸時代の町家。本ウダツのある町家は彦根城下町で数棟しか残っておらず、極めて貴重。袖壁の模様も美しい。



**11 レトロな看板の街角**  
戦前の化粧品のレトロな看板が、「モダン彦根」の空気を今に伝えている。道はくいちがいになっている。



**12 本町宿**  
江戸時代の町家を改装して2016年にオープンした宿泊施設。土間や梁など、町家本来の良さをそのまま味わえる。NPO法人ひこね文化デザインフォーラムが運営。



**13 明性寺**  
1606年、井伊直孝に招かれ現在地に創立。本堂は1798年、鐘楼門は1846年に建てられた。門前には、彦根バルブ創業者・門野留吉の顕彰碑がある。



**14 奥野家住宅**  
1855年に建てられた町家。江戸時代は郷居、明治から昭和まで醤油屋。近年まで小児科医だった。屋根の上には鐘遣さんがいる。国登録有形文化財。



**15 宗安寺**  
上野国箕輪から井伊家とともに移転。赤門は佐和山城、本堂は長浜城からの移築と伝わる。朝鮮通信使の高官の宿所だった。境内に木村重成の首塚が残る。



**16 四番町スクエア**  
江戸時代は武家屋敷地。大正11年に公設市場ができ、市民の台所として親しまれた。1999～2006年の再開発で、大正ロマン風のまちに生まれ変わった。



**17 寺町通り**  
上野国高崎がルーツの大信寺、重要文化財の阿彌陀如来を本尊とする来迎寺、寛永年間創建の願通寺が並ぶ。通りの石垣は、彦根城築城のときの残石といわれる。



**18 旧数江家住宅**  
関東大震災後の大正末期に建てられ、鉄骨を入れるなど地震に備えた造りをしている。広大な邸宅のうち、客間(現在の主屋)とコンクリート製の蔵が現存。



**19 日本町郵便局**  
明治14年、彦根初の郵便局として開局。現在の局舎の隣に、大正期に建てられた2代目の局舎が残っている。タイル張りのモダンな外観が町並みに調和。

ごじょうかそうえず  
「御城下惣絵図」とは？  
江戸時代の彦根城下町の様子をもっとも詳細に伝える古地図。天保7(1836)年、彦根藩の普請奉行らによって作られました。屋敷の持ち主の名前が書かれているのは武家屋敷や寺院など、書かれていないのは町人の住まいです。道幅や堀幅、屋敷の間口などの寸法まで書かれています。彦根城博物館所蔵。

凡例

- 江戸時代にはなかった道
- 上魚屋町
- 江戸時代の町名
- お地藏さん
- おすすめ撮影スポット
- 方位・縮尺
- 100m



**19 日本町郵便局**  
明治14年、彦根初の郵便局として開局。現在の局舎の隣に、大正期に建てられた2代目の局舎が残っている。タイル張りのモダンな外観が町並みに調和。



**18 旧数江家住宅**  
関東大震災後の大正末期に建てられ、鉄骨を入れるなど地震に備えた造りをしている。広大な邸宅のうち、客間(現在の主屋)とコンクリート製の蔵が現存。



**17 寺町通り**  
上野国高崎がルーツの大信寺、重要文化財の阿彌陀如来を本尊とする来迎寺、寛永年間創建の願通寺が並ぶ。通りの石垣は、彦根城築城のときの残石といわれる。



**16 四番町スクエア**  
江戸時代は武家屋敷地。大正11年に公設市場ができ、市民の台所として親しまれた。1999～2006年の再開発で、大正ロマン風のまちに生まれ変わった。



**15 宗安寺**  
上野国箕輪から井伊家とともに移転。赤門は佐和山城、本堂は長浜城からの移築と伝わる。朝鮮通信使の高官の宿所だった。境内に木村重成の首塚が残る。